

# Vacuum Technology and Innovative Ideas

株式会社アルバック 第101期 事業報告書

2004.7.1 → 2005.6.30



ULVAC

ULVAC



代表取締役社長 中村 久三

Q

2005年6月期は、3期連続の増収増益と過去最高益を達成しました。この結果をどう評価していますか。

A

2005年6月期でアルバックは2,000億円規模の企業になることができました。2000年6月期に連結売上高が1,000億円を超えてから、5年間で約2倍にすることができました。その原動力となったのがFPD（フラットパネルディスプレイ）の製造装置です。

2005年6月期の業績に関して最も強調したいことは、このFPDの業界で装置メーカーとして世界のトップになれたということです。アルバックは以前から半導体製造装置のニーズが飽和するという今日の状況を予測し、次の成長分野ではきちんとトップをとっていかこうと考えていました。それがFPDの製造装置だったわけです。

装置メーカーにとっては、成長する分野でトップシェアをとることが非常に重要で、そのためには、経営上のさまざまなリスクをとっていかねばなりません。的確なリスクテイキングを行い、それを社員全員がバックアップしてくれた結果が今回の業績に現れていると思います。その意味で2005年6月期はアルバックの経営コンセプトの正しさが立証された年だったと思います。

## 次なる成長分野でも必ず装置メーカーとして継続

Q

2005年6月期の取り組みの中で、とくに大きな成果を上げたものは何でしょうか。

A

全力をあげて取り組んだのはコスト競争力の向上です。いま、エレクトロニクス業界では、韓国、台湾、中国という競争相手が出てきて、薄型テレビや半導体の価格が下がってきています。こうしたデフレ状態は、あと数年は続いていくだろうと見えています。デフレ構造のもとでアルバックのような装置メーカーが利益を確保するためには、コストダウンへの取り組みが最も重要な課題であり、装置納入後のトラブル低減のためのシステムづくりに注力しました。

半導体や液晶の設備は技術革新が非常に速く、たとえば液晶の基板サイズは1年間に第5世代から第8世代まで大型化が進みました。世代が変わると設備がすべて更新されますから、新開発の設備が最初からうまく稼働するかどうかが一番のポイントになります。納入した設備がうまく立ち上がりず、再調整や設計のやり直しが生じると、アルバックのコスト負担が増加します。この問題を解決するため、2005年6月期はトラブルの再発防止システムを本格的に導入し、コストの削減を図りました。

Q

中長期の成長戦略としてポストFPD戦略を進めています。これについてお聞かせください。

A

ポストFPDについては数年前から準備を進め、次の成長への布石を打ってきましたが、その柱は4つあります。まず第1にハイブリッドモジュールと呼ばれる電子部品をつくる製造装置です。MEMS（微小電子機械システム）、LEDなどの化合物半導体、高密度実装などの製造装置でアルバックには大きなアドバンテージがあります。

第2はハイブリッドカー関連の製造装置です。この分野では、駆動系のモーターに使用する永久磁石、発電機を制御するパワーIC、コンデンサなどの製造装置を得意としています。

第3は中国です。中国が今後、世界の製造業の中心になることは間違いありません。アルバックでは2005年6月期に真空炉を製造する現地法人

# トップシェアをとり、 的な成長をめざします。

など新たに4社設立し、合計8社の体制を構築してシェアの拡大をめざしています。

第4はカスタマーサポートです。装置は企業の設備投資に左右されるため、景気の影響を強く受けますが、消耗品や材料の提供、装置部品の再生・洗浄などのビジネスは継続的に発生し、需要が拡大します。そこで、グループ全体としてサポート事業に注力し収益の安定化を図っていきます。

**Q** アルバックのめざす企業像はどのようなもの  
でしょうか。

**A** 私たちが最終的にめざしているのは、お客様のインフラ領域、しかもいちばん成長している最先端でトップメーカーになるということです。全世界のトップメーカーです。たとえば、ハイブリッドカーが伸びるのであれば、そこで装置メーカーとしてトップになりたいし、中国が伸びるのであればそこでトップになるということです。つまり、お客様が最先端の仕事をやろうとしたら必ずアルバックの設備が必要になるというイメージです。

そして、いつまでもチャレンジ精神に溢れた会社であり続けたいと思っています。装置メーカーはある産業なり分野なりが成長していく前段階で必要な設備をつくっています。その産業が成熟期にある時は、装置メーカーの役割はもう終わっています。ですから、常に新しい商品分野、新しい事業領域に果敢に挑戦していく以外に、装置メーカーが成長する道はありません。最先端の技術を世界に発信することがアルバックの役割の一つだと思っています。

**Q** 2006年6月期以降の経営環境と業績見通しについてお聞かせください。

**A** 2006年6月期の事業環境は堅調に推移すると考えています。日本企業の設備投資は活況を呈していますし、海外でも特に台湾のFPDメーカーなどが投資を活発化させています。2006年6月期の連結業績予想については、売上高2,100億円、



営業利益131億円、経常利益126億円、当期純利益71億円を見通しています。

中長期的に見ると、FPDや半導体などの既存分野は今後安定成長期に入り、アルバックの売上高も年率数%増の範囲で推移することになるだろうと予測しています。一方、ポストFPDの4分野は年率2割程度の成長ができるだろうと見込んでいます。中国は100億円程度の事業規模になっていますし、ハイブリッドカーを支えるキーとなる部品の製造に真空装置が使われております。それらの分野ではアルバックの装置がデファクトスタンダード化しつつあります。

既存分野は、ラインナップの拡充や新商品開発などにより成長し、また、ポストFPDを軌道に乗せることにより、連結売上高3,000億円の達成をめざしていきます。

**Q** 東京証券取引所第一部に上場して1年半が経過  
しました。株主の皆様メッセージをお願いします。

**A** 2004年4月に東証一部に上場した際、124億円の資金を調達できましたが、そのうち50億円をFPDなどの研究開発資金に充てました。また、2004年12月には増資をさせていただき90億円を調達しました。このうち20億円は中国進出、15億円はインクジェットメーカーの米国ライトレックス社の残余50%の株式取得、残りの55億円は2005年6月期から2006年6月期にかけて、デジタル家電部品やハイブリッドカー部品製造装置の研究開発などに充てる予定です。つまり、調達資金はほとんどすべて次の成長への投資に使わせていただくということです。

アルバックは、株主の皆様への利益配分を最も重要な政策の一つと認識しています。連結配当性向を主要な指標と位置付けており、連結業績や財務体質の強化等を総合的に勘案のうえ利益還元していきます。今後も積極的な事業展開によって企業価値の向上を図り、株主の皆様への期待に応えてまいります。

# Growth Strategy

## アルバックの成長戦略

装置メーカーとしてのアルバックは、「設備投資が見込まれる「成長する技術」、  
「成長する地域」、「成長する分野」に果敢に挑戦し、継続的な成長をめざします。

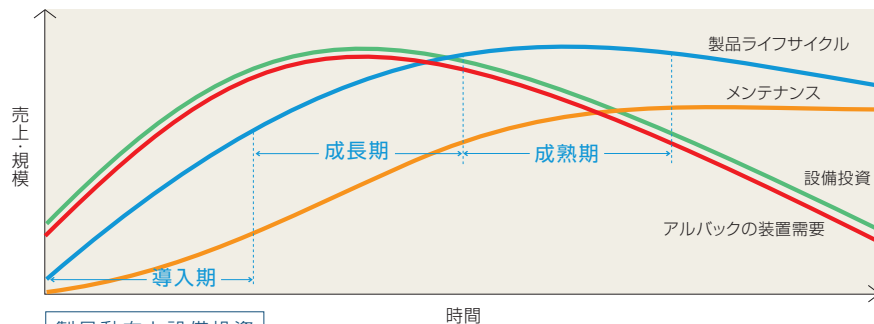
アルバックは、今後も継続して発展していくために、FPD  
製造装置の次に成長する「4つの柱（ポストFPD戦略）」を  
軌道に乗せることに注力しています。

積極投資

成長する技術

成長する地域

成長する分野



製品動向と設備投資

時間

技術  
Technology

アルバック  
成長の  
3つのベクトル

分野

Field

## 4 カスタマーサポート事業とOEM生産

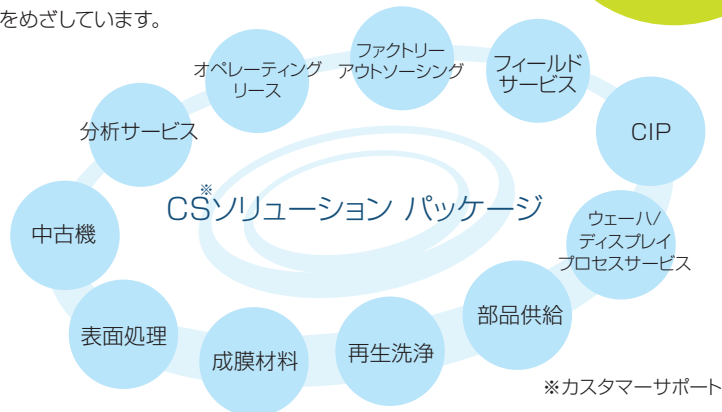
お客様に密着したサービスを提供することで強固な信頼関係を構築するとともに、材料・消耗部品・洗浄などのビジネスを推進し、変動の激しい製造装置ビジネスの安定化をめざしています。

### 主なCS拠点

- 海外CS拠点 27箇所
- 国内CS拠点 36箇所

### CSソリューション工場

- 千葉、鹿児島、八戸
- シンガポール
- 中国・蘇州
- 韓国・平澤
- 台湾・台南（設立準備中）





## 1 デジタル家電用部品製造装置

LEDなどの化合物半導体、MEMS、光学薄膜デバイス、高密度実装といった、デジタル家電に使用される電子部品用製造装置の開発と拡販を進めています。



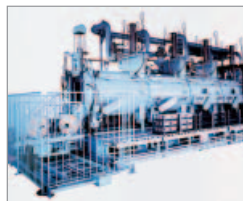
シリコンディープエッチング



エッチング装置

## 2 ハイブリッドカー用部品製造装置

ハイブリッドカーに使用されるモーター部分の永久磁石、二次電池、コンデンサ、パワーICなどを製造する各種装置の開発と拡販を通じて、売上拡大と地球環境保全への貢献を両立します。



真空熱処理炉



イオン注入装置

地域

Region

China

中国体制

- 現地法人
- 駐在員事務所



## 3 世界の製造業を牽引する中国

ローテクからハイテクまで、今後も急速な成長が期待される中国市場に対応するため、現地法人8社による生産・販売体制を構築し、装置やコンポーネントのシェア拡大をめざしています。



愛発科真空技術(蘇州)有限公司

# ULVAC Close Up

アルバック クローズアップ

## アルバックと環境

アルバックは地球環境の保全を経営の最重要課題の一つと位置付け、製造プロセスや装置における環境負荷の低減はもちろん、環境保全に寄与する商品を社会に提供することによって、住みよい地球と豊かな社会の実現に貢献しています。

### アルバック

製造工程における電力や水の使用量を削減するとともに、廃棄物のゼロエミッション達成に取り組んでいます。



装置

### お客様

お客様に提供する製造装置そのものも環境に配慮した省エネ、省資源設計になっています。

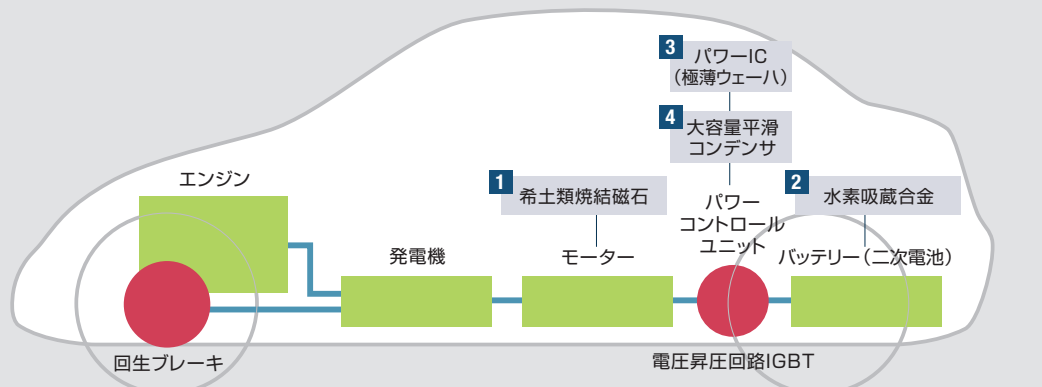


製品

### 一般消費者

太陽光発電の太陽電池パネルやハイブリッドカー用部品の製造装置を通して、環境にやさしい商品を提供しています。

## ハイブリッドカー向けアルバックの新技术



Q

ハイブリッドカーとは？

A

電気モーターと化石燃料エンジンをともに搭載し、両者の長所を生かした環境にやさしい自動車です。

負荷のかかる発進時はエンジンを停止し、モーターのみで走行します。通常走行時はエンジンのみを使用し、その駆動力でモーターを回して充電します。また、減速時の制動エネルギーも電気エネルギーに変換してバッテリーに蓄えるため、電気自動車のように充電する必要がありません。高出力と高燃費効率を両立した最先端のシステムです。

1

モーター

## 希土類焼結磁石

アルバックの装置

真空溶解炉

連続式水素処理炉

真空焼結炉

時効炉

ハイブリッドカーの心臓部ともいえる駆動モーターには、小さくても大きな磁力を発揮するネオジム焼結磁石という永久磁石が使われています。アルバックでは、誘導加熱式真空溶解炉など、この磁石を製造するための各種設備をラインナップし、モーターの軽量化・高出力化に貢献しています。



真空溶解炉

2

バッテリー（二次電池）

## 水素吸蔵合金

アルバックの装置

真空溶解炉

真空熱処理炉

電池には使い捨ての一次電池と充電可能な二次電池がありますが、ハイブリッドカーに使用されるのは、エネルギー密度が大きく高電圧で高出力のニッケル水素二次電池です。この電池の負極として用いられる水素吸蔵合金は、アルバックの真空溶解炉や真空熱処理炉によって生み出されています。



真空熱処理炉

3

パワーコントロールユニット

## パワーIC（極薄ウェーハ）

アルバックの装置

スパッタリング装置

イオン注入装置

ハイブリッドカー用のパワーICは、0.05mmという極薄のウェーハの上に、トランジスタ、ダイオード、抵抗などの個別半導体や電子部品を組み合わせたICです。アルバックのスパッタリング装置は、この極薄ウェーハの成膜時における割れやたわみ、高温化を解決した画期的な成膜装置です。



スパッタリング装置

4

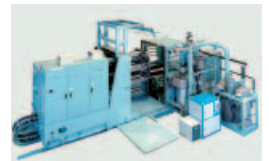
パワーコントロールユニット

## 大容量平滑コンデンサ

アルバックの装置

巻取式真空蒸着装置

コンデンサは電荷を一時的に蓄える機能を持った電気部品で、ハイブリッドカーの動力回路には、モーターの高出力・高電圧化に伴って、フィルムコンデンサが使われはじめています。アルバックはこのコンデンサ製造における成膜工程に巻取式真空蒸着装置を提供しています。



巻取式真空蒸着装置

## Column

## 太陽電池パネル

太陽光をパネルで受け止め電気エネルギーに変換するのが太陽電池パネルです。アルバックのCat（触媒）CVDによる成膜技術は、パネルの大面积成膜が可能で原料ガス利用効率も高く、次世代の薄膜製造法として期待されています。



アルバック茅ヶ崎工場の屋上に設置された太陽電池パネル

## ISO14001の取得状況

アルバックはグループ全体を包括する環境運営システム構築の一環として、数年前よりグループ全社のISO14001の認証取得を進めています。現在、国内12社、海外4社で認証取得済みとなっています。

# Year in Review

アルバックこの1年

Technology

2004.7

バッチタイプ処理の300mm用  
自然酸化膜除去装置を発売

半導体デバイスの微細化・高速化が進むなか、これまでウェット処理で行われていた自然酸化膜除去工程をドライプロセスに置き換える必要が生じています。アルバックが開発した「RISE-300」は、300mmウェーハに対応したバッチ式の自然酸化膜除去装置で、100枚(2バッチ)／時間という高いスループットを実現。高生産性と低ランニングコストを両立した画期的製品として注目されています。



バッチ式自然酸化膜除去装置「RISE-300」

Business

2005.1

中国で相次いで新会社設立と  
工場増設

アルバックは中国をグローバル展開の重点地域として捉え、生産拠点の新設と拡充に力を注いでいます。2005年1月には、自動車、家電、エレクトロニクスなどの部品製造に欠かせない真空炉を製造・販売する「愛発科中北真空(沈陽)有限公司」を設立しました。また、中国における真空ポンプ市場の急成長に対応して、真空ポンプ用部品を製造・販売する「愛発科天馬電機(靖江)有限公司」を設立しま

2004.7

2004.9

2004.10

2004.11

Technology

2004.9

フィルムコンデンサ用巻取式真空  
蒸着装置の高速蒸着に成功

ポリプロピレンやポリエステルなどの極薄プラスチックフィルムに、アルミニウムや亜鉛などの金属を従来の2倍以上の搬送速度で蒸着する装置を開発し、販売を開始しました。高速蒸着の実現によって、超小型の面実装用途への展開が可能となり携帯電話などへの応用が期待されています。同時に、ハイブリッドカー用コンデンサなどの量産化に寄与する高精度のパターン蒸着にも成功しました。

Technology

2004.10

iFireテクノロジー社からTDEL  
ディスプレイ用製造装置を受注

TDEL(無機EL)と呼ばれる低コストで高性能のフラットパネルディスプレイを開発しているiFireテクノロジー社(カナダ・トロント市)より、生産設備用製造装置を数台受注しました。これを機にiFire社などカナダのお客様に対するサービスやメンテナンスの体制を強化します。

Technology

2004.11

NLDを用いたMEMS/NEMS向け  
シリコンディープエッチング装置を発売

MEMS/NEMSのデバイス作製においては、シリコンのディープエッチング技術が極めて重要な位置を占めています。アルバックでは、NLD(磁気中性線放電)エッチング装置のラインナップに、シリコンディープエッチングも可能な「NLD-Si」シリーズを追加しました。1台の装置で、ガラスとシリコンの両材料の加工ができる世界初の次世代MEMS/NEMSドライエッチング装置です。



した。さらにカスタマーサポート体制を確立するため、「愛発科真空技術（蘇州）有限公司」で第2期工場の建設を進めています。



愛発科中北真空（沈陽）有限公司完成予想図

Business

2005.1

「成都東方愛発科真空技術有限公司」  
を子会社化

2003年11月に中国・成都東方儀器有限公司と合併で設立した成都東方愛発科真空技術有限公司に増資を行い、子会社化しました。これまでのヘリウム漏れ探し装置や冷媒充填機に加え、一般産業用真空蒸着装置などを製造する新工場を建設中です。子会社化により新商号は「愛発科東方真空（成都）有限公司」となりました。



愛発科東方真空（成都）有限公司完成予想図

2005.1

2005.3

2005.4

Business

2005.3

バイオ・ナノテクベンチャーの  
「(株)イニシウム」を100%子会社化

アルバックは「(株)イニシウム」の株式を取得し子会社としました。「(株)イニシウム」は、東京工業大学・岡畑恵雄教授の開発した高周波水晶発振子を使用した生体分子間相互作用測定装置を開発・販売するバイオ・ナノテクベンチャーで、大学や研究機関向けに事業を展開しています。今後は、アルバックのバイオ分野を担う子会社として、相互協力のもと事業の拡大をめざします。

Business

2005.4

富士通ヴィエルエスアイ(株)から  
FPD製造装置事業を譲り受け

アルバックは2005年4月富士通ヴィエルエスアイ(株)よりFPD製造装置事業を譲り受けました。今回の事業譲り受けによって、既存装置にODF(液晶滴下注入装置)を加えFPD製造装置の商品ラインナップを充実し、シナジー効果により同事業の強化・拡大を図っていきます。

Business

2005.4

ロシアに現地法人  
「OOO アルバック」を設立

ロシアは過去5年連続でGDPがプラス成長を遂げるなど経済状況の改善が著しく、産業機械や電子、自動車などの設備投資も活発化しています。アルバックでは、モスクワに現地法人「OOO アルバック」を設立し、ロシアにおける製品の拡販とカスタマーサポートの拡充を通じて、ロシア市場への本格参入を図っていきます。

※OOOは有限会社の意味

### 営業の経過及び成果

当連結会計年度（2004年7月1日から2005年6月30日まで）

当連結会計年度の世界経済は、米国では原油価格の高騰や金利の上昇の影響などにより、個人消費の伸びが鈍化し設備投資の拡大がスローペース化するなど、小幅な成長となりました。

また、韓国、台湾、中国などのアジア地域では設備投資の増加などにより、総じて堅調に推移いたしました。一方、わが国経済は、製造業全般で設備投資や輸出が増加、個人投資も緩やかに増加するなど、景気は回復基調で推移いたしました。

このような状況において、当社グループの主要なお客様であるFPDや半導体関連の業界では、設備投資は若干の減速局面があったものの、韓国、台湾、日本、中国を中心に、薄型テレビ（液晶テレビ、プラズマディスプレイ）やデジタルカメラ、DVD（デジタル多用途ディスク）、携帯電話などのデジタル家電関連の投資が積極的に行われました。

当社グループはこのような経営環境に対処するため、独創的な新製品をタイミング良く市場に投入しアルバックソリューションズの推進による積極的な受注活動を行うとともに、富士通ヴィエルエスアイ株式会社からの設備事業譲受やバイオ事業への進出などを行ってまいりました。

また、2004年12月に次世代技術の開発及び事業拡大のために増資を行い、調達した資金は、FPDやデジタル家電部品製造装置などの研究

開発資金と中国現地法人の設立・増資資金に充たいたしました。

さらに、お客様からの価格引き下げ要求が継続するなか、生産改革第2段階の推進によりコストダウンを図るとともに、諸経費の削減を継続することで、固定費の圧縮を進めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の業績は受注高2,062億30百万円と前期比280億33百万円(15.7%)増加し、売上高につきましては、1,968億43百万円と前期比389億93百万円(24.7%)増加いたしました。当連結会計年度の損益につきましては、経常利益124億48百万円となりました。なお、当期純利益につきましては、71億46百万円となりました。

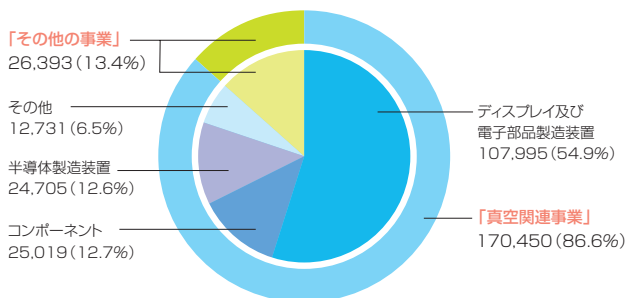
### 真空関連事業

ディスプレイ及び電子部品製造装置、半導体製造装置、コンポーネント、その他真空機器

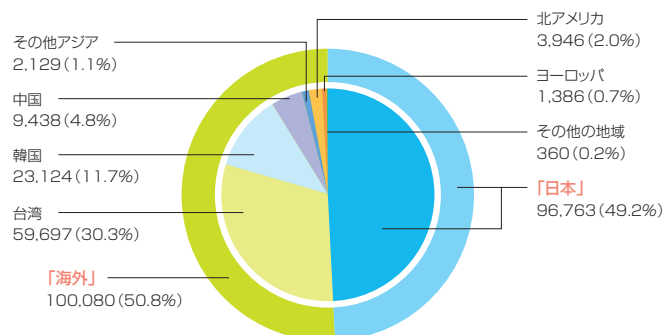
ディスプレイ及び電子部品製造装置につきましては、韓国、台湾、中国において第5～第7世代液晶ディスプレイやプラズマディスプレイなどの設備投資が積極的に行われ、枚葉式スパッタリング装置「SMDシリーズ」、インライン式スパッタリング装置「SDPシリーズ」、インライン式真空蒸着装置「ECHシリーズ」などの売上が好調を維持しました。また、電子部品製造装置では光学薄膜や高密度実装基板用スパッタリング装置などの受注、売上が好調でした。

半導体製造装置ではデジタル家電関連だけでなく、パワーICなどの

事業別売上高（単位：百万円）



地域別売上高（単位：百万円）



自動車部部分野、LEDなどの化合物半導体分野における設備投資が行われ、スパッタリング装置「CERAUSシリーズ」、「ENTRON™シリーズ」やエッチング装置「NEシリーズ」、「RISEシリーズ」などの売上好調でした。

コンポーネントは、主に液晶ディスプレイ製造装置向けの大型ドライポンプや測定器、自動車部品業界や家電業界向け真空ポンプなどの受注、売上好調でした。

その他の製造装置では、一般産業用として自動車関連向けのコンデンサ用真空蒸着装置や熱処理炉などの売上好調でした。

その結果、受注高につきましては、1,809億24百万円、受注残高868億17百万円、売上高につきましては、1,704億50百万円となりました。また、営業利益につきましては、136億47百万円となりました。

## その他の事業

### 先端材料、表面解析装置、装置制御等

その他の事業につきましては、アルバックソリューションズを生かしたグループ一体となった積極的な拡販活動を行い、液晶ディスプレイ・半導体関連用スパッタリングターゲット材料や部品洗浄などの材料ビジネスの受注、売上好調でした。

その結果、受注高につきましては、253億6百万円、受注残高53億54百万円、売上高につきましては、263億93百万円となりました。また、

営業利益につきましては、15億27百万円となりました。  
(なお、上記金額には消費税等は含まれておりません。)

## 当社グループが対処すべき課題

当社グループの主要なお客様であるFPD、電子部品業界及び半導体業界での設備投資意欲は持続するものの成長が鈍化することが予想され、予断を許さない状況にあります。このような市場環境において、当社グループは、お客様満足度の向上をすべての活動の基本におき、独創的な商品開発、受注の拡大、シェアの確保に努め、コストダウン戦略をより一層推進してまいります。

特に、中間期においては、追加原価の発生が見込まれる第6世代以降の液晶ディスプレイ製造装置の売上比重が増大し、全体の利益が圧迫される見通しです。そのため、攻守織り交ぜた生産改革を推進し完成度が高く手離れの良い製品で、収益力の向上をめざします。

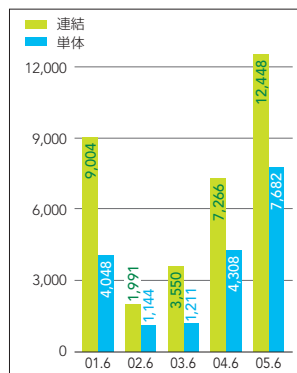
また、既存の装置に加え、新たに獲得した液晶滴下装置などFPD関連装置のラインナップを充実させることや、化合物半導体、MEMS、光学膜製造装置など競争力のある製品の開発を行ってまいります。

グローバル化としては、台湾、中国などを中心に事業拡大のための投資と、新たに連結子会社となった中国現地法人の生産の立上げを行ってまいります。また、韓国では、液晶ディスプレイ製造装置の生産の早期立上げを進めてまいります。

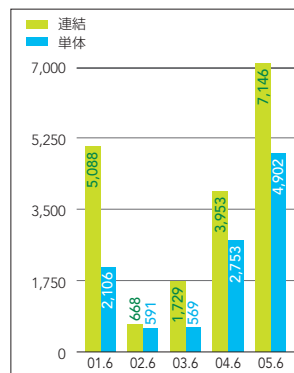
売上高(単位:百万円)



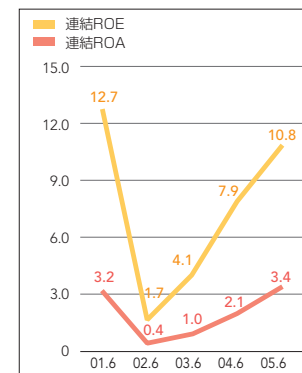
経常利益(単位:百万円)



当期純利益(単位:百万円)



連結ROE/連結ROA(単位:%)



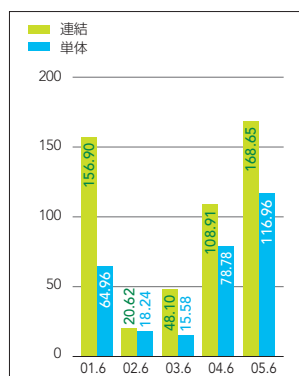
# Consolidated Financial Statements

## 連結財務諸表（要約）

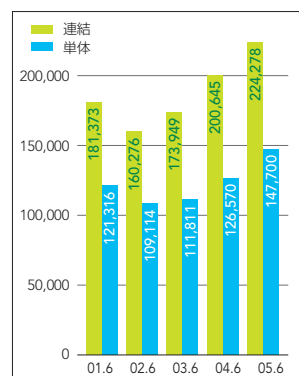
### 連結貸借対照表

単位：百万円	当連結会計年度 2005年6月30日現在	前連結会計年度 2004年6月30日現在	当連結会計年度 2005年6月30日現在	前連結会計年度 2004年6月30日現在
資産の部			負債の部	
流動資産	147,236	136,859	流動負債	118,489
現金及び預金	17,537	17,886	支払手形及び買掛金	55,330
受取手形及び売掛金	68,603	66,387	短期借入金	32,027
たな卸資産	52,455	47,213	その他	31,133
繰延税金資産	4,467	2,956	固定負債	28,189
その他	4,358	2,653	社債	200
貸倒引当金	△185	△236	長期借入金	17,775
固定資産	77,042	63,785	その他	10,214
有形固定資産	53,871	46,348	負債合計	146,678
建物及び構築物	22,840	20,731	少数株主持分	3,746
機械装置及び運搬具	18,878	14,156	資本の部	
その他	12,153	11,461	資本金	13,468
無形固定資産	4,441	2,399	資本剰余金	14,695
投資その他の資産	18,730	15,039	利益剰余金	44,991
投資有価証券	10,154	8,464	その他有価証券評価差額金	630
繰延税金資産	3,522	2,876	為替換算調整勘定	74
その他	5,054	3,698	自己株式	△3
繰延資産	—	1	資本合計	73,854
資産合計	224,278	200,645	負債、少数株主持分及び資本合計	224,278

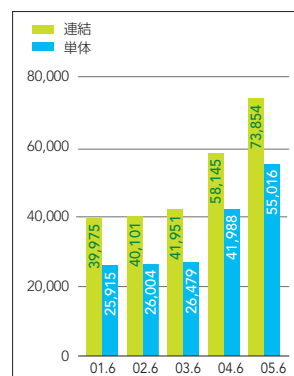
1株当たり当期純利益（単位：円）



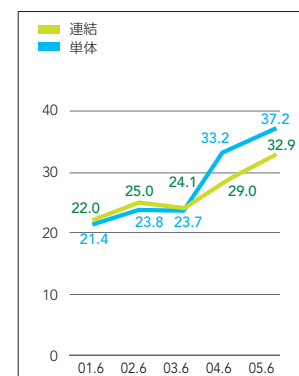
総資産（単位：百万円）



株主資本（単位：百万円）



株主資本比率（単位：%）



## 連結損益計算書

単位：百万円	当連結会計年度 2004年7月1日から 2005年6月30日まで	前連結会計年度 2003年7月1日から 2004年6月30日まで
売上高	196,843	157,851
売上原価	156,154	127,854
売上総利益	40,689	29,996
販売費及び一般管理費	25,383	21,521
営業利益	15,306	8,476
営業外収益	1,421	1,357
受取利息及び受取配当金	264	166
受取手数料	283	257
持分法による投資利益	102	289
その他	772	645
営業外費用	4,280	2,567
支払利息	818	978
その他	3,462	1,589
経常利益	12,448	7,266
特別利益	232	394
貸倒引当金戻入額	44	143
その他	188	250
特別損失	412	796
固定資産除却損	272	509
その他	140	287
税金等調整前当期純利益	12,268	6,864
法人税、住民税及び事業税	6,257	3,597
法人税等調整額	△1,877	△909
少数株主損益	742	222
当期純利益	7,146	3,953

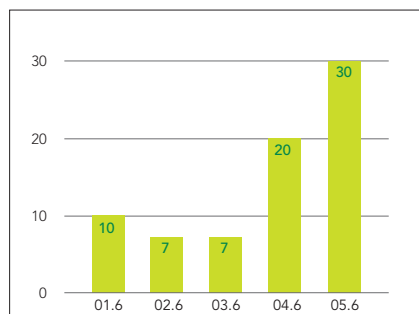
## 連結剰余金計算書

単位：百万円	当連結会計年度 2004年7月1日から 2005年6月30日まで	前連結会計年度 2003年7月1日から 2004年6月30日まで
連結剰余金期首残高	38,880	35,421
連結剰余金増加高	—	—
連結剰余金減少高	1,035	493
配当金	769	227
役員賞与	267	266
当期純利益	7,146	3,953
連結剰余金期末残高	44,991	38,880

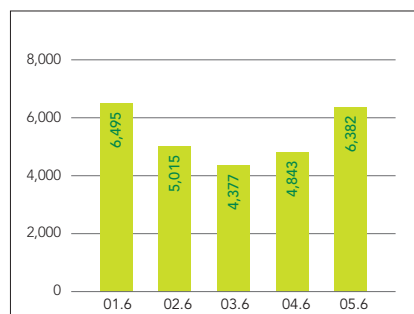
## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円	当連結会計年度 2004年7月1日から 2005年6月30日まで	前連結会計年度 2003年7月1日から 2004年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,850	9,559
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,296	△12,172
財務活動によるキャッシュ・フロー	△549	4,357
現金及び現金同等物に係る換算差額	225	△233
現金及び現金同等物の増加額	231	1,511
現金及び現金同等物の期首残高	16,635	15,124
現金及び現金同等物の期末残高	16,866	16,635

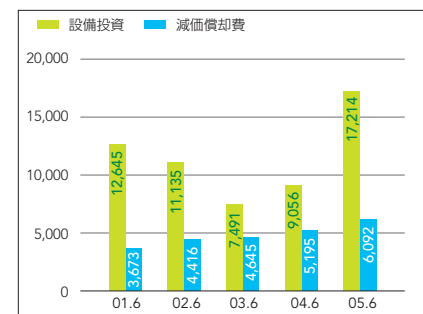
1株当たり配当金(単位：円)



研究開発費(単位：百万円)



設備投資/減価償却費(単位：百万円)





# Non-Consolidated Financial Statements

## 単体財務諸表（要約）

### 単体貸借対照表

単位：百万円	当期		前期	
	2005年6月30日現在	2004年6月30日現在	2005年6月30日現在	2004年6月30日現在
資産の部			負債の部	
流動資産	89,596	80,148	流動負債	76,894
現金及び預金	8,691	7,008	支払手形及び買掛金	43,940
受取手形及び売掛金	51,080	50,656	短期借入金	16,209
たな卸資産	23,032	19,545	未払金	4,386
繰延税金資産	2,605	1,520	前受金	2,867
その他	4,205	1,450	その他	9,493
貸倒引当金	△17	△32	固定負債	15,790
固定資産	58,105	46,421	社債	—
有形固定資産	34,939	29,561	長期借入金	11,218
建物及び構築物	12,416	11,921	退職給付引当金	3,861
機械装置	14,639	10,156	その他	711
土地	4,693	4,556	負債合計	92,685
その他	3,191	2,928	資本の部	
無形固定資産	2,699	421	資本金	13,468
投資その他の資産	20,466	16,439	資本剰余金	14,695
投資有価証券	2,411	2,404	利益剰余金	26,285
関係会社株式	12,256	10,150	(うち当期純利益)	(4,902)
その他	5,799	3,886	株式等評価差額金	571
繰延資産	—	1	自己株式	△3
資産合計	147,700	126,570	資本合計	55,016
			負債・資本合計	147,700

### 単体損益計算書

単位：百万円	当期		前期	
	2004年7月1日から 2005年6月30日まで	2003年7月1日から 2004年6月30日まで		
売上高	139,740	110,977		
売上原価	119,302	96,363		
販売費及び一般管理費	13,441	11,593		
営業利益	6,998	3,021		
営業外収益	3,853	2,900		
営業外費用	3,168	1,614		
経常利益	7,682	4,308		
特別利益	53	59		
特別損失	322	598		
税引前当期純利益	7,413	3,768		
法人税、住民税及び事業税	3,974	1,492		
法人税等調整額	△1,463	△477		
当期純利益	4,902	2,753		
前期繰越利益	2,010	896		
当期末処分利益	6,912	3,649		

### 利益処分計算書

単位：百万円	当期		前期	
	株主総会承認日 2005年9月29日	株主総会承認日 2004年9月29日		
当期末処分利益	6,912	3,649		
固定資産圧縮積立金取崩額	17	17		
計	6,929	3,666		
これを次のとおり処分いたしました。				
株主配当金	1,287	769		
	(1株につき30円)	(1株につき20円)		
役員賞与	102	86		
(うち監査役賞与)	(12)	(12)		
固定資産圧縮積立金	—	1		
別途積立金	2,700	800		
次期繰越利益	2,840	2,010		

# Corporate Data / Shareholders Information

## 会社概要・株式状況

### 会社概要

商号 株式会社アルバック  
ULVAC, Inc.  
商標 ULVAC  
本社 神奈川県茅ヶ崎市萩園  
2500番地  
設立 1952年8月23日  
資本金 13,467,797,500円  
従業員数 1,337名

### 株式の状況

会社が発行する株式の総数 80,000,000株  
発行済株式の総数 42,905,938株  
株主数 17,992名

### 大株主

株主名	当社への出資状況 持株数(千株)	当社への出資状況 議決権比率(%)
日本生命保険相互会社	3,202	7.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,915	6.80
アルバック持株会	1,648	3.84
株式会社みずほ銀行	1,604	3.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	1,604	3.74
株式会社UFJ銀行	1,604	3.74
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,432	3.34
稲畑産業株式会社	870	2.03
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	814	1.90
松下電器産業株式会社	782	1.82

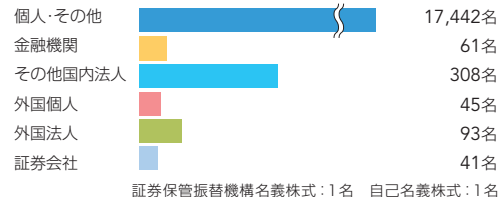
### 連結子会社 2005年6月30日現在

アルバックテクノ株式会社  
アルバック九州株式会社  
アルバック東北株式会社  
アルバック精機株式会社  
株式会社アルバック・コーポレートセンター  
アルバック機工株式会社  
アルバック理工株式会社  
アルバック イーエス株式会社  
ULVAC Technologies, Inc.  
ULVAC TAIWAN, Inc.  
ULVAC KOREA, Ltd.  
寧波愛発科真空技術有限公司  
日本リライアンス株式会社  
アルバック・ファイ株式会社  
アルバック・クライオ株式会社  
Litrex Corporation  
アルバックマテリアル株式会社

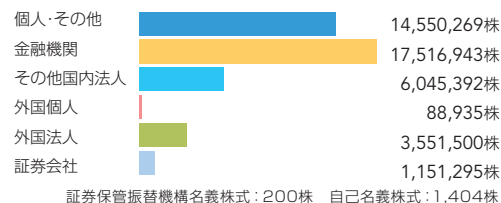
### 役員 2005年9月29日現在

代表取締役社長 中村 久三  
代表取締役副社長 諏訪 秀則  
常務取締役 小日向久治  
常務取締役 山川 洋幸  
常務取締役 桜田 勇蔵  
常務取締役 中村 静雄  
常務取締役 常見 佳弘  
常務取締役 砂賀 芳雄  
取締役 天野 繁  
取締役 福田 隆  
取締役 藤山 潤樹  
取締役 加藤 丈夫  
取締役 石崎 淳一  
取締役 佐藤 孔史  
取締役 本吉 光  
取締役(非常勤) 木村 光利  
取締役(非常勤) 中野 佳信  
監査役 菊城 宏  
監査役 川島 和也  
監査役(非常勤) 佐藤 恒雄  
監査役(非常勤) 長澤 正人  
監査役(非常勤) 原 稔

### 所有者別株主数 計17,992名



### 所有者別株式数 計42,905,938株



## 株式会社アルバック

本社／工場

〒253-8543 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500

TEL. 0467-89-2033

東京事務所

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-3-1

TEL. 03-5218-5700

### ■ 株主メモ

決算期	6月30日(配当金受領株主確定日)
定時株主総会	9月下旬
基準日	6月30日(臨時に必要あるときは予め公告した日)
名義書換代理人	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
お問い合わせ先	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部(証券代行事務センター) TEL.03(3323)7111(代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店、全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞

### ■ Webページ紹介

当社ホームページでは、最新のニュースや技術情報など、当社をご理解いただくための様々な情報を提供いたしております。

<http://www.ulvac.co.jp>

